

第60回男子・第33回女子 全日本大学ホッケー選手権大会

開催日時 11 月 3 日 (木) 会場 岐阜県グリーンスタジアム 天候 晴れ

【全試合結果】 < Aコート >

第1試合 女子3位決定 戦 9:30	立命館大学	2	$\begin{pmatrix} 1 - 0 \\ 0 - 1 \end{pmatrix}$ 延長 1-0	1	山梨学院大学
第2試合 男子3位決定 戦 11:00	慶應義塾大学	1	$\begin{pmatrix} 0 - 1 \\ 1 - 1 \end{pmatrix}$	2	立命館大学
第3試合 女子決勝戦 12:30	東海学院大学	2	$\begin{pmatrix} 0 - 1 \\ 2 - 0 \end{pmatrix}$	1	天理大学
第4試合 男子決勝戦 14:00	山梨学院大学	1	$\begin{pmatrix} 1 - 1 \\ 0 - 0 \end{pmatrix}$ 延長 0-0 PS 5-3	1	天理大学

【各試合の結果・詳細】

Aコート 第1試合 女子3位決定戦

$$\begin{array}{ccc}
 \text{立命館大学} & 2 & \begin{pmatrix} 1 & - & 0 \\ & & \\ 0 & - & 1 \end{pmatrix} & 1 & \text{山梨学院大学} \\
 & & \text{延長} & & 1-0
 \end{array}$$

<得点>

立命館 : 43分 友次、84分 諏訪

山梨学院 : 66分 山田

<戦評>

立命館大学のセンターパスにより試合が開始された。共に中盤でのボールの奪い合いからサークル突破を目指す
が、固いDFを崩すことが出来ず、シュートまで持っていけない展開が続いた。立命館がやや押し気味になった終盤の2
8分、29分に立て続けにPCを取得。しかし、得点を挙げることは出来ない。対する山梨学院大学も積極的に相手陣内
に攻め込むが大きなチャンスを作れない。両チーム無得点のまま前半戦を折り返した。
後半戦が開始され、43分、立命館#20内藤がインターセプトからセンターリングを送る。それを#8友次がタッチ
シュートでゴールネットを揺らし先制点を挙げる。更に48分、#5永山がサークル内で倒され、PSを取得。#1伴田が
左隅を狙うもゴールポストに弾かれ、追加点を挙げるが出来ない。一方、山梨学院は66分に#9山田がリバウンド
からヒットシュートを決め、同点に追いつく。試合はそのまま延長戦に持ち込まれた。
延長戦に入り、山梨学院は#5永山を中心として積極的に攻める。しかし、立命館の粘り強い守備を破ることは出来
ない。立命館も得点のチャンスを作るが、押し切ることが出来ない。決着がついたのは84分、山梨学院はPCを取得。
#6諏訪が撃ち込んだボールはそのままゴールへ入り、ゴールデンゴールとなる。2-1で試合は終了し、立命館が3
位となった。

テクニカルオフィサー	荻谷 和代	アンパイア	壽山 由樹
ジャッジ	東原 宏明		谷川 昌子

Aコート 第2試合 男子3位決定戦

$$\begin{array}{ccc}
 \text{慶應義塾大学} & 1 & \begin{pmatrix} 0 & - & 1 \\ & & \\ 1 & - & 1 \end{pmatrix} & 2 & \text{立命館大学}
 \end{array}$$

<得点>

慶應義塾 : 46分 梶村

立命館 : 34分 渡部、39分 森

<戦評>

立命館大学のセンターパスにより試合が開始された。両チーム激しいボールの奪い合いの中、立命館が13分にPC
を取得。#5伊藤がドラッグシュートを放つが、慶應義塾大学#2草薙の好セーブに阻まれる。対する立命館は立て続
けにPCを取得。34分、#5伊藤のパスを受け#14渡部が相手DFを崩し、ヒットシュートを決める。0-1で立命館が
リードしたまま前半戦を折り返した。
後半戦に入り、39分、立命館がPCを取得する。#5伊藤のパスを受け#18森がドラッグシュートを決め、0-2とす
る。しかし、慶應義塾は46分、#16梶村からのパスを#4富田が倒れこみながら決め1-2とし反撃態勢に入る。立命
館はその後ボールを支配し、なかなか慶應義塾に流れを渡さない。試合終了間際の70分、慶應義塾はPCを取得。
タッチシュートが立命館GK#1村上の好セーブに阻まれ絶好の機会を逸した。試合はそのまま終了し1-2で立命館
が逃げ切り3位となった。

テクニカルオフィサー	草野 妥彦	アンパイア	富山 喜正
ジャッジ	出橋 英児		小原 直也

Aコート 第3試合 女子決勝戦

$$\text{東海学院大学 } 2 \begin{pmatrix} 0 & -1 \\ 2 & -0 \end{pmatrix} 1 \text{ 天理大学}$$

<得点>

東海学院 : 57分 63分 日隈
天理 : 33分 打谷

<戦評>

天理大学のセンターパスにより試合が開始された。立ち上がりからペースを掴んだ東海学院は連続してPCを取得するも天理の固い守備に阻まれてしまう。次第に流れは天理に移り、粘り強い守備から速攻でPC、更に決定的なチャンスを作るが東海学院#2坂井を中心とした固い守備に阻まれる。試合が動いたのは33分、天理がゴール前で混戦の中、#7打谷が押し込み、待望の先制点を挙げ、天理がリードのまま前半戦を折り返した。

後半戦に入り、両チーム激しいボールの奪い合いの中、天理は立て続けにPCを取得。しかし、東海の固い守備を破ることは出来ない。一方、東海学院は57分、カウンターから#11小沢が天理陣内へ攻め込む。パスを受けた#8日隈がプッシュシュートを決め、同点に追いつく。更に63分、東海学院がPCを取得。タッチシュートを狙うも1度は相手GKに阻まれる。しかし、それを#8日隈が押し込み、逆転する。この1点で勢いに乗った東海学院は、その後も更に激しい攻撃を仕掛ける。追加点を奪えないものの、天理にシュートチャンスを与えず、2-1のまま終了のホーンが鳴った。東海学院は、地元岐阜県で2年連続6度目の優勝を飾った。

テクニカルオフィサー	野澤 光代	アンパイア	安岡 裕美子
ジャッジ	荻谷 和代		山田 恵美

Aコート 第4試合 男子決勝戦

$$\text{山梨学院大学 } 1 \begin{pmatrix} 1 & -1 \\ 0 & -0 \end{pmatrix} 1 \text{ 天理大学}$$

延長 0-0
PS 5-3

<得点>

山梨学院 : 2分 西川
天理 : 34分 三谷

<戦評>

天理大学のセンターパスにより試合が開始された。早々ボールをカットした山梨学院大学は1分、2分に立て続けにPCを取得する。このチャンスに#6西川が強烈なフリックシュートをゴール右上に決め、先制点を挙げる。その後も山梨#5大橋、天理#2佐々木を中心に激しい攻防をみせるも両チームとも得点を挙げる事が出来ない。天理は23分24分と立て続けにPCを取得する。強引にゴールを狙うも、山梨#1山崎、#2塩川の好セーブによりゴールを死守する。34分に連続して得たPCを天理は#7伊藤からのパスを受け#6三谷が押し込み、同点に追いつく。1-1の同点で前半をおさえた。

後半、開始早々山梨は37分に#7佐藤のセンターリングから#10草野がタッチシュートを決めたとされたが、ゴールは認められなかった。一方天理も49分、50分とPCを取得するも、山梨の固いDFにより追加点を挙げる事が出来ない。68分に山梨はPCを決められず、一方天理はPCから#3下市、#6三谷らが連続シュートを放つが、山梨#2塩川のファインセーブによりゴールにならなかった。そのまま1-1で後半が終了し、延長戦へ突入する。

延長戦が始まり、山梨学院が73分、74分にPCを取得するも天理、#8佐々木の好セーブでゴールを死守する。天理も猛攻を見せるも得点することが出来ないまま前半戦を終える。後半戦は天理ペースで試合が進む。一方、山梨学院はカウンターから79分PCを取得。しかし、#2大野の好セーブにより得点することが出来ない。両者最後の1点を争い激しい攻防が続けるが、得点を挙げることは出来ず、勝敗はPS戦へと持ち込まれた。

PS戦は山梨学院が先攻で行われた。両チームとも3本目までは確実に決める。4本目、山梨学院#23原田が右上に決める。天理は#11小澤が右上を狙うも相手GKの好セーブに阻まれる。山梨学院は5本目を確実に決める。PS戦は5-4で山梨学院が勝利し、試合は終了した。山梨学院は2年連続、2度目の優勝を飾った。

テクニカルオフィサー	境山 博之	アンパイア	近藤 聡史
ジャッジ	長田 和雄		戸塚 洋介

第60回男子・第33回女子 全日本学生ホッケー選手権大会
最終日 試合結果

【男子】

優勝	山梨学院大学	2年連続2度目の優勝
第2位	天理大学	
第3位	立命館大学	
第4位	慶應義塾大学	

【女子】

優勝	東海学院大学	2年連続6度目の優勝
第2位	天理大学	
第3位	立命館大学	
第4位	山梨学院大学	

尚、この大会の最優秀選手は
男子 北里 謙治 (山梨学院大学)
女子 今野 華瑠香 (東海学院大学)